

| | | | | | |
|--------------|--|-------------------------------------|-----------|-----------|--------------------------|
| 学校教育目標 | 「わたしの生活は、私が創ります」 (知) 学んだことを生かして主体的・対話的に考え、深く学び続ける子どもを育てます。 (徳) 互いのよさを認め合い、よりよい生き方を求め、協力し合う子どもを育てます。 (体) 命と体を大切に、心身共に健やかな体をつくる子どもを育てます。 (公) 進んで人のために役立つとうとし、地域に愛着をもつ子どもを育てます。 (開) 広い視野をもち、チャレンジし続ける子どもを育てます。 | | | | |
| | 学校概要 | 創立 41 周年 | 学校長 川村 真弘 | 副校長 菅谷 泰尚 | 2 学期制 一般学級: 13 個別支援学級: 3 |
| 児童生徒数: 392 人 | | 主な関係校: 富岡東中学校 並木中学校 並木中央小学校 並木第四小学校 | | | |

| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 | 並木・富岡東中ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
|----------------------------|--|--|
| 〈伝え合うことで個や集団の考えを深化・発展させる力〉 | 富岡東中学校 並木中学校 並木第一小学校 並木中央小学校 並木第四小学校 | 「場に応じた心地よいあいさつをし、相手(他者)と円滑なコミュニケーションを図れる子」 「あいさつ運動」を通して、児童生徒の目を地域に向け、地域と自分とのコミュニケーションについて考える機会を設ける。 ・授業参観、乗り入れ授業等を行うことによって、児童生徒の実態を把握し、円滑なコミュニケーションを行うことができるよう支援をしていく。 |

| | |
|--------|--|
| 中期取組目標 | — 自主性、責任感、正義感を高めます — |
| | <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員が学校経営に参画し、教育活動に充実感をもち、活気あふれる学校づくりを推進します。 ② 児童が自己肯定感・有用感と所属意識をもち、仲間と認め合い、支え合い、高め合う学校づくりを推進します。 ③ 家庭・地域・関係機関と連携し協働し、信頼される学校づくりを推進します。 |

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|------------------|---|
| 生きてはたらく知 | ①「学習スタンダード」を意識した授業展開を図るとともに、少人数指導やTT指導・教科分担制・高学年マネジメントを取り入れ、児童の理解と意欲を高め、基礎・基本の定着を目指す。②日課表にスキルタイムを取り入れ、基礎的・基本的な知識や技能の習熟と外国語及び外国語活動の充実を図る。 |
| 豊かな心 | ①異校種連携交流・校内異学年交流の充実及び人権教育や道徳教育の充実を図る。 ②音楽朝会・芸術鑑賞会・和楽器体験・茶道体験・国際理解教室・読書活動を通じて豊かな心を育てる。 |
| 健やかな体 | ①家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と食育を推進するとともに、「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図る。 ②学校保健委員会を開催し健康習慣が身に付くように保護者や地域及び関係機関と連携を図る。 |
| 特別支援教育 | ①療育センター等の関係機関と連携し、児童一人ひとりの実態に即した教育の推進を図る。 ②ユニバーサルデザイン教育の視点に立ち、個別支援学級や国際教室について理解を深め、互いに尊重し、共に生きる姿勢を育む。 |
| 児童・生徒指導 | ①「並一スタンダード」や「非行予防プログラム」により規範意識を育む指導に取り組む。 ②職員会議内に児童理解の内容を定例化し、全職員で児童の状況を共通理解し、支援していく。 |
| 地域連携・学校運営委員会 | ①幼保小中連携、あいさつ運動、金沢養護学校との交流を積極的に進めるとともに、保護者・地域ボランティアの協力を得て、児童の安心感や達成感につなげる。 ②学校運営協議会の設置に向け、保護者や地域の方々との連携を深める。 |
| 自分づくり教育(キャリア教育) | ①「並一タイム」を中心に、体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②人や書物との出会いを通し、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を教育課程の中に意図的に位置づける。 |
| 教育課程 | ①本校で重点化した「伝え合うことで個や集団の考えを深化・発展させる力」を、教科横断的に育成していくために、授業実践を通して教育課程の見直しを図り、カリキュラムマネジメントを改善していく。 ②読書活動を推進し、言語活動の充実を図る。 |
| いじめへの対応 | ①職員研修を実施し、全職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、児童アンケートや保護者、地域からの情報をもとに、些細な児童の変化を見逃さないようにする。 ②児童支援専任教諭を中心に、認知された案件の経過確認をていねいに行う。 |
| 人材育成・組織運営(働き方改革) | ①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーや経験の豊富な教職員が適時、講師となって充実した活動を推進する。②電子申請システムやミライムを有効に活用し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。③必要に応じて教務会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。 |